

Syllabus

2024 年度

国際医療福祉専門学校
救 急 救 命 学 科

授業科目	解剖生理学 I	履修年次	1年次
		単位数	2単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	朽方 規喜	オフィスアワー	
一般目標	人体の構造を理解することで、救急救命士にとって必要な知識へとつながるもとなる知識を学習する。		
行動目標	人体の構造と名称について説明できる。 人体のつくりと役割を細胞、組織、臓器の概念から説明できる。 神経系の構成と役割、機能、臓器に及ぼす作用等を説明できる。		
キーワード			
スケジュール			
1回目～14回目	人体を構成する要素		
	体表からみる人体の構造		
	神経系・感覚系		
	まとめ		
15回目	認定試験		
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)		
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版 P56～62、P63～76、P77～96 人体の構造と機能、からだの地図帳		
参考書・資料等	別刷りのプリント		
履修上の注意			

授業科目	解剖生理学Ⅱ	履修年次	1年次
		単位数	2単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	朽方 規喜	オフィスアワー	
一般目標	人体の構造を理解することで、救急救命士にとって必要な知識へとつながるもとなる知識を学習する。		
行動目標	呼吸系の構造、機能、役割を説明できる。 循環系の構成と役割、脈管を説明できる。		
キーワード			
スケジュール			
1回目～14回目	呼吸系		
	循環系		
	まとめ		
15回目	認定試験		
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)		
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版 P97～107、P108～118 人体の構造と機能、からだの地図帳		
参考書・資料等	別刷りのプリント		
履修上の注意			

授業科目	解剖生理学Ⅲ	履修年次	1年次
		単位数	2単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	朽方 規喜	オフィスアワー	
一般目標	人体の構造を理解することで、救急救命士にとって必要な知識へとつながるもとなる知識を学習する。		
行動目標	消化系の役割を消化、吸収、排泄の観点から説明できる。 泌尿系の役割を排泄と体液のバランスを中心に説明できる。 生殖系の構造と役割を説明できる。 内分泌系、血液・免疫系の役割と機能について説明できる。 筋・骨格系、皮膚系の構造と機能について説明できる。 生命維持に必要な栄養素の役割とエネルギーが産生される過程について説明できる。まとめ		
キーワード			
スケジュール			
1回目～14回目	消化系		
	泌尿系		
	生殖系		
	内分泌系		
	血液・免疫系		
	筋・骨格系		
	皮膚系		
	生命の維持		
	まとめ		
15回目	認定試験		
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)		
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版 P119～162 人体の構造と機能、からだの地図帳		
参考書・資料等	別刷りのプリント		
履修上の注意			

Syllabus

2024 年度

国際医療福祉専門学校
リハビリテーション学科
理学療法士コース

授業科目	解剖学 I	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	田崎 裕紀	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	運動器系を三次元的に捉え、その構造と位置を知る。 基本構造や形態から基本的な運動機能を考える。		
行動目標	人体の部位、名称などを覚える。 教科書のイラスト、写真を2Dから3Dに構築する。 自身の身体を使い感じる事が出来る。		
キーワード	人体, 形態学, 三次元		
スケジュール			
1回目	解剖学総論、骨学: 骨組織と骨格の構造		
2回目	解剖学総論、骨学: 骨組織と骨格の構造		
3回目	骨学: 骨の連結と靭帯		
4回目	骨学: 骨の連結と靭帯		
5回目	骨学: 形態と名称(頭頸部と体幹)		
6回目	骨学: 形態と名称(頭頸部と体幹)		
7回目	骨学: 形態と名称(上肢)		
8回目	骨学: 形態と名称(上肢)		
9回目	骨学: 形態と名称(下肢)①		
10回目	骨学: 形態と名称(下肢)②		
11回目	骨学: 形態と名称(下肢)③		
12回目	骨学: 形態と名称(下肢)④		
13回目	関節・靭帯①		
14回目	関節・靭帯②		
15回目	関節・靭帯③		
評価方法	定期試験(70-90%) 課題や取り組み方など(状況により20%前後) 授業演習の参加率など(10%前後)		
教科書	標準理学療法士・作業療法士 専門基礎分野 解剖学 第4版 医学書院		
参考書・資料等	カラー人体解剖学 構造と機能:ミクロからマクロまで 西村書店 基礎運動学 第6版 医歯薬出版 機能解剖学的 触診技術 メディカル ビュー(上肢)、(下肢・体幹)		
履修上の注意	人体の正常な構造や形態を学ぶといふことは、自身の体について学ぶことでもある。 常に自分自身に置き換えて考えることである。また、構造や形態にも意味があるものである。 暗記という勉強法ではなく、なぜという疑問を考え学習することが重要である。		

授業科目	解剖学Ⅱ	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	田崎 裕紀	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	運動器系を三次元的に捉え、その構造と位置を知る。 基本構造や形態から基本的な運動機能を考える。		
行動目標	人体の部位、名称などを覚える。 教科書のイラスト、写真を2Dから3Dに構築する。 自身の身体を使い感じる事が出来る。		
キーワード	人体, 形態学, 三次元		
スケジュール			
1回目	関節・靭帯④		
2回目	筋学:頭頸部		
3回目	筋学:頭頸部		
4回目	筋学:体幹部		
5回目	筋学:体幹部		
6回目	筋学:上肢①		
7回目	筋学:上肢②		
8回目	筋学:上肢③		
9回目	筋学:上肢④		
10回目	筋学:下肢①		
11回目	筋学:下肢②		
12回目	筋学:下肢③		
13回目	筋学:下肢④		
14回目	筋学:下肢⑤		
15回目	筋学:下肢⑥		
評価方法	定期試験(70-90%) 課題や取り組み方など(状況により20%前後) 授業演習の参加率など(10%前後)		
教科書	標準理学療法士・作業療法士 専門基礎分野 解剖学 第4版 医学書院		
参考書・資料等	カラー人体解剖学 構造と機能:ミクロからマクロまで 西村書店 基礎運動学 第6版 医歯薬出版 機能解剖学的 触診技術 メディカル ビュー(上肢)、(下肢・体幹)		
履修上の注意	人体の正常な構造や形態を学ぶといふことは、自身の体について学ぶことでもある。 常に自分自身に置き換えて考えることである。また、構造や形態にも意味があるものである。 暗記という勉強法ではなく、なぜという疑問を考え学習することが重要である。		

授業科目	基礎理学療法学Ⅰ	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	佐藤 真吾	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	理学療法士としての基礎となる知識を学習してください。		
行動目標	理学療法の概要・歴史・役割・過程について説明できる 「理学療法モデル」について説明できる 理学療法の職域について説明できる 各病期(急性期, 回復期, 生活期, 介護・終末期)における理学療法の意義や目的について説明できる 理学療法士の職能について説明できる 理学療法士の教育課程について説明できる 理学療法学としての研究について説明できる		
キーワード			
スケジュール			
1回目	理学療法の概要について		
2回目	理学療法の歴史について		
3回目	理学療法の役割について		
4回目	理学療法の過程について		
5回目	理学療法の過程について		
6回目	「理学療法モデル」について		
7回目	「理学療法モデル」について		
8回目	理学療法の職域について		
9回目	理学療法の職域について		
10回目	各病期(急性期, 回復期, 生活期, 介護・終末期)における理学療法の意義や目的について		
11回目	各病期(急性期, 回復期, 生活期, 介護・終末期)における理学療法の意義や目的について		
12回目	各病期(急性期, 回復期, 生活期, 介護・終末期)における理学療法の意義や目的について		
13回目	理学療法士の職能について		
14回目	理学療法士の教育課程について		
15回目	理学療法学としての研究について		
評価方法	1. 筆記試験と小テスト、授業への参加態度などを総合的に評価します。 2. 筆記試験は最終授業より1週間以上上げた日、もしくは既定の試験期間に行います。		
教科書	ビジュアルレクチャー基礎理学療法学 大橋ゆかり編、医歯薬出版株式会社		
参考書・資料等			
履修上の注意	資料等を配布し、それら資料の中からも、期末試験時に出題します。しっかりと学習してください。		

授業科目	理学療法研究法	履修年次	3年次
		単位数	2単位
授業形態	講義	必要時間数	60時間(30コマ)
担当教員	田崎裕紀	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	必要な論文を検索できる。 論文の内容を理解することができる。 論文を第三者に分かりやすく伝えることができる。		
行動目標	研究論文に使用される専門用語や統計処理の意味がわかる。 必要な文献の検索しその方法を知る。 論文の構成と主旨を理解し、要約して説明することができる。		
キーワード			
スケジュール			
1回目/2回目	研究法総論		
3回目/4回目	論文の紹介とその解説		
5回目/6回目	抄読会用レジュメの作成方法		
7回目/8回目	抄読会用プレゼンテーションの作成方法		
9回目/10回目	抄読会レジュメおよびプレゼンテーションの作成		
11回目/12回目	文献検索及び作成準備		
13回目/14回目	文献検索及び作成準備		
15回目/16回目	文献検索及び作成準備		
17回目/18回目	文献検索及び作成準備		
19回目/20回目	文献検索及び作成準備		
21回目/22回目	実験結果の分析1		
23回目/24回目	実験結果の分析2		
25回目/26回目	論文の作成1		
27回目/28回目	論文の発表1		
29回目/30回目	論文の発表2		
評価方法	プレゼンテーション(70%)およびレジュメ作成(30%)		
教科書	資料を配布		
参考書・資料等	最新 理学療法学講座 理学療法研究法 編著:対馬栄輝 医歯薬出版株式会社 はじめての研究法コ・メディカルの研究法入門 第2版 神陵文庫		
履修上の注意	要点を整理して、聴衆に解りやすい表現(図や写真)を意識すること。 抄読の準備及び発表は個人ごとに行う。 下書きを忘れず全体の把握をすること。 各項目を理解し、解りやすく表現すること。 文章の意味を的確に伝えられるように説明の仕方を工夫すること。		

授業科目	物理療法学 I	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	佐藤真吾	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	理学療法の一つとなる物理療法について理解し、実施できることを目指す。 (実際に実施することは別の単位となる)		
行動目標	物理療法の種類を説明できる 物理療法(温熱療法, 寒冷療法, 光線療法, 超音波療法, 電気刺激療法, 牽引療法)の適応について説明できる 物理療法(温熱療法, 寒冷療法, 光線療法, 超音波療法, 電気刺激療法, 牽引療法)の禁忌について説明できる 物理療法(温熱療法, 寒冷療法, 光線療法, 超音波療法, 電気刺激療法, 牽引療法)の実施方法について説明できる		
キーワード			
スケジュール			
1回目	物理療法の種類		
2回目	温熱療法		
3回目	温熱療法		
4回目	寒冷療法		
5回目	光線療法		
6回目	超音波療法		
7回目	電気刺激療法		
8回目	牽引療法		
9回目			
10回目			
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
評価方法	筆記試験(100点)		
教科書	物理療法学 改訂第3版、松澤 正・江口勝彦 監修、金原出版株式会社		
参考書・資料等	イラストでわかる物理療法、杉元雅晴・菅原 仁 編、医歯薬出版株式会社 エビデンスから身につける物理療法、庄本康治 編、羊土社 物理療法学、烏野 大・川村博文 編、医歯薬出版株式会社 物理療法学テキスト 改訂第3版、細田多穂 監修、南江堂		
履修上の注意	後期には、前記で学習する物理療法を実際に体験します。この授業を通し理解を深め、実際に実践することができるように知識を高める必要があります。		

授業科目	物理療法学Ⅱ	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	演習	必要時間数	45時間(23コマ)
担当教員	佐藤真吾	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	機器を安全に操作できるようになる。機器の特性を知る。		
行動目標	物理療法(温熱療法, 寒冷療法, 光線療法, 超音波療法, 電気刺激療法, 牽引療法)の適応について説明できる 物理療法(温熱療法, 寒冷療法, 光線療法, 超音波療法, 電気刺激療法, 牽引療法)の禁忌について説明できる 物理療法(温熱療法, 寒冷療法, 光線療法, 超音波療法, 電気刺激療法, 牽引療法)の実施方法について説明できる 物理療法(温熱療法, 寒冷療法, 光線療法, 超音波療法, 電気刺激療法, 牽引療法)を実際に使用する		
キーワード			
スケジュール			
1回目/2回目	実際の実験		
3回目/4回目	実際の実験		
5回目/6回目	実際の実験		
7回目/8回目	実際の実験		
9回目/10回目	実際の実験		
11回目/12回目	実際の実験		
13回目/14回目	実際の実験		
15回目/16回目	実際の実験		
17回目/18回目	実際の実験		
19回目/20回目	実際の実験		
21回目/22回目	実際の実験		
23回目	実際の実験		
評価方法	グループ発表 実験への取り組み姿勢 出欠席		
教科書	物理療法学テキスト(南江堂)		
参考書・資料等			
履修上の注意	臨床で多用される知識・技術のため、各自が機器を扱えるように習得する必要がある。機器の特性や注意事項を再認識しておく。また、物理療法における必要知識として、解剖学・生理学の知識が重要となるので復習しておくこと。		

授業科目	中枢神経疾患の理学療法 I	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	高杉 潤	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	脳の構造・機能を知り、脳血管障害に由来する臨床徴候とそのメカニズムを理解する。 片麻痺をはじめ、脳血管障害により生じる種々の障害に対する理学療法の実際と科学的根拠について理解する。 講義に加え、基本的な治療技術を習得する。		
行動目標	中枢神経疾患にかかる理学療法が実施できる 脳血管障害(片麻痺を含む)、認知症 高次脳機能障害、Parkinson病とその関連疾患 脊髄小脳変性症<SCD>、脊髄損傷(頸髄損傷を含む) 中枢神経疾患にかかる理学療法について説明できる 筋萎縮性側索硬化症<ALS>、多発性硬化症<MS> 外傷性脳損傷<TBI>、脳腫瘍		
キーワード	脳血管障害・錐体路障害、高次脳機能障害・運動療法		
スケジュール			
1回目	中枢神経疾患にかかる理学療法 脳血管障害(片麻痺を含む)		
2回目	脳血管障害(片麻痺を含む)		
3回目	脳血管障害(片麻痺を含む)		
4回目	認知症		
5回目	高次脳機能障害		
6回目	高次脳機能障害		
7回目	Parkinson病とその関連疾患		
8回目	Parkinson病とその関連疾患		
9回目	脊髄小脳変性症<SCD>		
10回目	脊髄損傷(頸髄損傷を含む)		
11回目	中枢神経疾患にかかる理学療法 筋萎縮性側索硬化症<ALS>		
12回目	多発性硬化症<MS>		
13回目	多発性硬化症<MS>		
14回目	外傷性脳損傷<TBI>		
15回目	脳腫瘍		
評価方法	定期試験(90%)、授業態度(10%)で総合的に評価する。		
教科書	PT・OTビジュアルテキスト 神経障害理学療法学 第1版 (羊土社)		
参考書・資料等	脳神経疾患ビジュアルブック(学研メディカル秀潤社) 15レクチャーシリーズ理学療法学テキスト神経障害理学療法学 I (中山書店) ベッドサイドの神経の診かた(南山堂)		
履修上の注意	解剖学、生理学、運動学、神経内科学、脳外科学、評価学などの学習内容が基礎となるため、十分に復習を行うこと。		

授業科目	中枢神経疾患の理学療法Ⅱ	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	演習	必要時間数	45時間(23コマ)
担当教員	高杉 潤	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	脳の構造・機能を知り、脳血管障害に由来する臨床徴候とそのメカニズムを理解する。 片麻痺をはじめ、脳血管障害により生じる種々の障害に対する理学療法の実際と科学的根拠について理解する。 講義に加え、基本的な治療技術を習得する。		
行動目標	中枢神経疾患にかかる理学療法が実施できる 脳血管障害(片麻痺を含む)、認知症 高次脳機能障害、Parkinson病とその関連疾患 脊髄小脳変性症(SCD)、脊髄損傷(頸髄損傷を含む) 中枢神経疾患にかかる理学療法について説明できる 筋萎縮性側索硬化症(ALS)、多発性硬化症(MS) 外傷性脳損傷(TBI)、脳腫瘍		
キーワード			
スケジュール			
1回目/2回目	中枢神経疾患にかかる理学療法 脳血管障害(片麻痺を含む)		
3回目/4回目	脳血管障害(片麻痺を含む)		
5回目/6回目	認知症		
7回目/8回目	高次脳機能障害		
9回目/10回目	高次脳機能障害		
11回目/12回目	Parkinson病とその関連疾患		
13回目/14回目	脊髄小脳変性症(SCD)		
15回目/16回目	脊髄損傷(頸髄損傷を含む)		
17回目/18回目	中枢神経疾患にかかる理学療法 筋萎縮性側索硬化症(ALS)		
19回目/20回目	多発性硬化症(MS)		
21回目/22回目	外傷性脳損傷(TBI)		
23回目	脳腫瘍		
評価方法	定期試験(90%)、授業態度(10%)で総合的に評価する。		
教科書			
参考書・資料等			
履修上の注意	解剖学、生理学、運動学、神経内科学、脳外科学、評価学などの学習内容が基礎となるため、十分に復習を行うこと。		

Syllabus

2024 年度

国際医療福祉専門学校
リハビリテーション学科
作業療法士コース

授業科目	基礎作業学	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義・演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	森田 茂久	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	作業療法における「作業」の個人的意味を理解し、ひとと作業と環境の相互作用の結果としての作業遂行を考え、個々人における「作業」の意義を考慮し、実践できるように学習する。 種々の作業活動について、作業の遂行、必要な道具・材料、工程等を学ぶ。		
行動目標	①作業について説明できる。 ②作業と運動生理機能との関係について説明できる。 ③作業と心理機能との関係について説明できる。 ④ライフステージと作業について説明できる。 ⑤作業分析について説明できる。 ⑥代表的な作業についての手順が説明できる。 ⑦代表的な作業の指導ができる。 ⑧代表的な作業の作業分析ができる。疼痛の病態とそのメカニズムについて説明できる		
キーワード	作業学、Activity、作業活動		
スケジュール			
1回目	オリエンテーション ～ひとと作業の関わり～		
2回目	作業学総論 作業と個人的意味		
3回目	作業療法における作業の活用の歴史		
4回目	基礎作業療法学各論 <健康と作業>		
5回目	基礎作業療法学各論 <作業分析とは…>		
6回目	基礎作業療法学各論 <作業分析の実施方法について>		
7回目	基礎作業療法学各論 <作業分析のまとめ方、レポート作成>		
8回目	作業の治療への適応 作業をするための理解		
9回目	作業の治療への適応 作業の指導方法		
10回目	作業の治療への適応 activity体験①タイルモザイク		
11回目	作業の治療への適応 activity体験①タイルモザイク		
12回目	作業の治療への適応 activity体験①タイルモザイク		
13回目	作業の治療への適応 activity体験②籐細工		
14回目	作業の治療への適応 activity体験②籐細工		
15回目	作業の治療への適応 activity体験②籐細工		
評価方法	①定期試験:80% ②提出物、講義内成果物:20% 上記にて総合的に評価を実施します。		
教科書	作業学 [作業療法学ゴールドマスターテキスト] 第3版 メディカルビュー社		
参考書・資料等	適宜、講義内にて参考資料を配布します。		
履修上の注意	作業療法の治療手段であるActivityについて、理論・知識・技術など回し、身に付けられるようにして下さい。		

授業科目	作業療法研究学	履修年次	3年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	大森 圭	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	研究の成果を解釈し、適用していく方法を学ぶ。 将来的な作業療法研究活動の基盤をつくるため、作業療法学研究の方法を学ぶ。		
行動目標	①2群間の差について適切な検定手法を選択し実施できる(群間の対応あり、なしを含む)。 ②パラメトリック・ノンパラメトリック検定の違い、カイ2乗検定法、一元配置分散分析、2変量の散布図を描き、回帰と相関の違いを説明できる。 ③根拠に基づいた医療(EBM)の5つのステップを列挙できる。 ④Patient, population, problem, intervention (exposure), comparison, outcome を用いた問題の定式化ができる。 ⑤研究デザインを概説、データベースや二次文献からのエビデンス、診療ガイドラインを検索することができる。 ⑥得られた情報の批判的吟味ができる。 ⑦診療ガイドラインの種類と使用上の注意、推奨の強さについて違いを説明できる。		
キーワード	臨床・研究倫理、統計と解析、文献抄録		
スケジュール			
1回目	オリエンテーション		
2回目	研究法を学ぶ意義について		
3回目	臨床倫理と研究倫理について		
4回目	研究の種類とデザインについて		
5回目	研究に必要な手法について		
6回目	信頼性と妥当性、検定について		
7回目	統計方法と解析方法について①		
8回目	統計方法と解析方法について②		
9回目	統計と解析の実践について①		
10回目	統計と解析の実践について②		
11回目	文献の検索方法		
12回目	文献抄録とは(文献抄録作成)		
13回目	抄録・プレゼンテーション(ポスター)作成		
14回目	プレゼンテーション(ポスター)発表		
15回目	まとめ		
評価方法	筆記試験 50% プレゼン、成果物 50% 上記にて総合的に評価をします。		
教科書	作業療法研究法 竹田徳則・大浦智子 編著(医歯薬出版)		
参考書・資料等	適宜、講義資料を配布します。		
履修上の注意	確率統計や分析手法、文献の探し方等を中心に授業を進めていきます。 ノートパソコンを使って統計処理を実践しますので、いつでも使用できるように準備をしておきましょう。		

授業科目	作業療法評価学総論	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義・演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	森田 茂久・大森 圭	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	作業療法士として、対象者を捉える上での検査・測定技術を身に付け、実践できるようにする。		
行動目標	①評価の意義と目的について説明できる。 ②バイタルサイン測定について説明・実施できる。 ③意識レベルについて説明できる。 ④面接・観察について説明・実施できる。 ⑤機能形態計測(四肢長, 周径など)について説明・実施できる。		
キーワード	検査・測定の意義・目的、バイタルサイン、意識レベル、面接・観察技法、機能形態計測		
スケジュール			
1回目	評価の意義と目的について学ぶ①		
2回目	評価の意義と目的について学ぶ②		
3回目	評価の意義と目的について学ぶ③		
4回目	バイタルサイン測定について意義・目的、解釈について学ぶ①		
5回目	バイタルサイン測定 実技演習①		
6回目	バイタルサイン測定 実技演習②		
7回目	意識レベルの検査について意義・目的、解釈について学ぶ①		
8回目	意識レベルの検査 実技演習①		
9回目	意識レベルの検査 実技演習②		
10回目	面接・観察技法について意義・目的、解釈について学ぶ①		
11回目	面接・観察技法 実技演習①		
12回目	面接・観察技法 実技演習②		
13回目	機能形態計測について意義・目的、解釈について学ぶ①		
14回目	機能形態計測 実技演習①		
15回目	機能形態計測 実技演習②		
評価方法	筆記試験 50% 実技試験 50% 上記にて総合的に評価します。		
教科書	作業療法学 作業評価学 ゴールドマスター MEDICAL VIEW ベッドサイドの神経の診かた 改定18版 南山堂		
参考書・資料等	適宜、講義資料を配布します。		
履修上の注意	作業療法士の専門的な知識・技術を習得する科目となります。 遅刻・欠席は控え、積極的に実技演習に取り組んで下さい。		

授業科目	作業療法評価学 I	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義・演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	森田 茂久・大森 圭	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	作業療法士として、対象者を捉える上での検査・測定技術を身に付け、実践できるようにする。		
行動目標	①反射及び筋緊張検査について説明・実施できる。 ②感覚・知覚検査について説明・実施できる。 ③協調性検査について説明・実施できる。 ④バランス検査について説明・実施できる。 ⑤上肢機能検査について説明・実施できる。		
キーワード	反射・筋緊張、感覚・知覚、協調性、バランス、上肢機能		
スケジュール			
1回目	反射及び筋緊張検査の意義・目的、解釈について学ぶ		
2回目	反射及び筋緊張検査 実技演習①		
3回目	反射及び筋緊張検査 実技演習②		
4回目	感覚・知覚検査の意義・目的、解釈について学ぶ		
5回目	感覚・知覚検査 実技演習①		
6回目	感覚・知覚検査 実技演習②		
7回目	協調性検査の意義・目的、解釈について学ぶ		
8回目	協調性検査 実技演習①		
9回目	協調性検査 実技演習②		
10回目	バランス検査の意義・目的、解釈について学ぶ		
11回目	バランス検査 実技演習①		
12回目	バランス検査 実技演習②		
13回目	上肢機能検査の意義・目的、解釈について学ぶ		
14回目	上肢機能検査 実技演習①		
15回目	上肢機能検査 実技演習①		
評価方法	筆記試験 50% 実技試験 50% 上記にて総合的に評価します。		
教科書	作業療法学 作業評価学 ゴールドマスター MEDICAL VIEW ベッドサイドの神経の診かた 改定18版 南山堂		
参考書・資料等	適宜、講義資料を配布します。		
履修上の注意	作業療法士の専門的な知識・技術を習得する科目となります。 遅刻・欠席は控え、積極的に実技演習に取り組んで下さい。		

授業科目	精神障害の作業療法Ⅰ	履修年次	2年次
		単位数	2単位
授業形態	講義・演習	必要時間数	60時間(30コマ)
担当教員	吉野 葉月	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	精神障害を生じる代表的疾患に対する基本的な作業療法について理解する		
行動目標	①画像評価を作業療法評価について説明できる。 ②疾患特異的な評価の主たるものを模擬実践できる。 ▶統合失調症 ▶気分障害 ▶神経症性障害 ▶パーソナリティー障害 ▶物質依存 ▶てんかん及びその他の精神障害		
キーワード	精神障害、評価、特徴的評価法		
スケジュール			
1回目/2回目	統合失調症の病態及び症状、その作業療法評価について学ぶ①		
3回目/4回目	統合失調症の病態及び症状、その作業療法評価について学ぶ②		
5回目/6回目	統合失調症の作業療法評価 実技演習		
7回目/8回目	気分障害の病態及び症状、その作業療法評価について学ぶ①		
9回目/10回目	気分障害の病態及び症状、その作業療法評価について学ぶ②		
11回目/12回目	気分障害の作業療法評価 実技演習		
13回目/14回目	神経症性障害の病態及び症状、その作業療法評価について学ぶ		
15回目/16回目	神経症性障害の作業療法評価 実技演習		
17回目/18回目	パーソナリティー障害の病態及び症状、その作業療法評価について学ぶ		
19回目/20回目	パーソナリティー障害の作業療法評価 実技演習		
21回目/22回目	物質依存の病態及び症状、その作業療法評価について学ぶ①		
23回目/24回目	物質依存の作業療法評価 実技演習		
25回目/26回目	てんかん及びその他の精神障害について学ぶ①		
27回目/28回目	てんかん及びその他の精神障害について学ぶ②		
29回目/30回	てんかん及びその他の精神障害の作業療法 実技演習		
評価方法	筆記試験 50% 実技試験 50% 上記について総合的に評価します		
教科書	ゴールドマスターテキスト 精神障害作業療法学 第3版 長崎重信監修 MEDICAL VIEW PT・OTビジュアルテキスト専門基礎 精神医学 羊土社		
参考書・資料等	適宜、講義資料を配布します。		
履修上の注意	教科書や資料はあるが、各疾患の特徴・治療について、自分でまとめられるようにしておくこと		

授業科目	精神障害の作業療法Ⅱ	履修年次	2年次
		単位数	2単位
授業形態	講義・演習	必要時間数	60時間(30コマ)
担当教員	吉野 葉月	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	精神障害を生じる代表的疾患に対する基本的な作業療法について理解する		
行動目標	①疾患ごとの生活障害の特性について説明できる。 ②疾患ごとの予後について説明できる。 ③疾患ごとの作業療法について説明・模擬実践できる。 ▶統合失調症 ▶気分障害 ▶神経症性障害 ▶パーソナリティー障害 ▶物質依存 ▶てんかん及びその他の精神障害		
キーワード	精神疾患、障害特性、作業療法治療		
スケジュール			
1回目/2回目	統合失調症の生活障害の特性、予後について学ぶ①		
3回目/4回目	統合失調症の生活障害の特性、予後について学ぶ②		
5回目/6回目	統合失調症の作業療法の実践 実技演習		
7回目/8回目	気分障害の生活障害の特性、予後について学ぶ①		
9回目/10回目	気分障害の生活障害の特性、予後について学ぶ②		
11回目/12回目	気分障害の作業療法の実践 実技演習		
13回目/14回目	神経症性障害の生活障害の特性、予後について学ぶ①		
15回目/16回目	神経症性障害の作業療法の実践 実技演習		
17回目/18回目	パーソナリティー障害の生活障害の特性、予後について学ぶ①		
19回目/20回目	パーソナリティー障害の作業療法の実践 実技演習		
21回目/22回目	物質依存の生活障害の特性、予後について学ぶ①		
23回目/24回目	物質依存の作業療法の実践 実技演習		
25回目/26回目	てんかん及びその他の精神障害の生活障害の特性、予後について学ぶ①		
27回目/28回目	てんかん及びその他の精神障害の生活障害の特性、予後について学ぶ②		
29回目/30回	てんかん及びその他の精神障害の作業療法の実践 実技演習		
評価方法	筆記試験 50% 実技試験 50% 上記について総合的に評価します		
教科書	ゴールドマスターテキスト 精神障害作業療法学 第3版 長崎重信監修 MEDICAL VIEW PT・OTビジュアルテキスト専門基礎 精神医学 羊土社		
参考書・資料等	適宜、講義資料を配布します。		
履修上の注意	教科書や資料はあるが、各疾患の特徴・治療について、自分でまとめられるようにしておくこと		

授業科目	義肢装具学	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義・演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	森田 茂久	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	リハビリテーション対象疾患について病学及び予後、病因と症状・検査及び治療を理解する。		
行動目標	①義肢装具に関わる作業療法士の役割について説明できる。 ⑦スプリントについて説明・作成できる。 ②上肢切断について説明できる。 ⑧下肢装具について説明できる。 ③義手の基本構造について説明できる。 ⑨頸椎体幹装具について説明できる。 ④義手の適合判定について説明できる。 ⑩疾患ごとの装具について説明できる。 ⑤筋電義手について説明できる。 ▶脳卒中 ▶脳性まひ ▶関節リウマチ ▶頸髄損傷 ⑥下肢切断・義足について説明できる ▶骨折 ▶腱損傷 ▶末梢神経損傷 ⑦上肢装具について説明できる。		
キーワード	各種装具の特徴・特性 装具療法 給付制度		
スケジュール			
1回目	装具学総論		
2回目	上肢装具・義手について①		
3回目	上肢装具・義手について②		
4回目	上肢装具・義手について③		
5回目	下肢装具について		
6回目	足継手、下肢装具のチェックアウト		
7回目	足継手の制御機構について		
8回目	CVA片麻痺装具について		
9回目	対麻痺装具について		
10回目	整形外科的装具		
11回目	末梢神経損傷における装具について		
12回目	頸椎・胸腰椎疾患の装具		
13回目	側弯装具・小児装具		
14回目	関節リウマチの装具について		
15回目	補装具における給付制度について		
評価方法	筆記試験 100%		
教科書	PT・OTビジュアルテキスト 義肢・装具学 単行本 羊土社		
参考書・資料等	適宜、講義資料を配布します。		
履修上の注意	実際の装具を装着体験してもらうことがあります。数やサイズに限りがあるため、全員に装着してもらうことは難しいですが、動きやすい服装(私服で可)でお願いします。		